

幼児教育ハンドブックの作成およびその英文化

松井 愛奈¹・無藤 隆²

日本における幼児教育の成果をまとめ、途上国の幼児教育支援に携わる日本の団体・個人、および、途上国の方々に資料として提供するために作成したハンドブックである。幼児教育実践の専門家が執筆を手がけており、単に日本の幼児教育を紹介するのではなく、それを参考にそれぞれの国の実情に応じたやり方で独自に応用、発展させていくことを念頭に置いている。日本語版と同時に英語版も作成した。目次は以下の通りである。

第1部 幼児教育の考え方

Part I Early Childhood Education

- 1 日本の幼児教育の枠組みと仕組み
Framework and mechanisms of early childhood education in Japan
- 2 保育において子どもの発達を促す
Promoting the child's development in early childhood care and education
- 3 幼児教育の実践事例にみる指導の仕方
— 紙ひこうき・紙鉄砲・ビー玉ころがし・なわとび —
Teaching in early childhood education as seen in several real-life examples
— Paper Airplanes・Paper Poppers・Rolling Marbles・Jumping Rope —
- 4 乳幼児の発達の概要
Overview of the development of the infants and young children

第2部 幼児教育の実践

Part II Early Childhood Education in Practice

- 1 保育の原理を実践につなげる手がかり
Principles into practice: early childhood education
- 2 カリキュラムづくりの概要
Guides to formulation of curriculum
- 3 年間指導計画・月案・週案・日案の作り方
Formulation of an instruction plan (Daily/

Weekly/Monthly/Annual)

- 4 幼稚園の1日
A day at kindergarten
- 5 保育内容
Child education program
保育内容を学ぶために
Guides to child education program
- 5-1 健康の指導：健康な身体をつくるための活動
Physical education : building healthy bodies
- 5-2 文化的活動の指導：自分の国の伝統文化を守るための活動
Cultural activities : cherishing traditions
- 5-3 言語の指導：コミュニケーション手段としての文字や言葉を使った活動
Language : using letters and words
- 5-4 数量の指導：子どもの生活に根ざした数量の活動
Numeracy : using everyday numbers
- 5-5 音楽活動の指導：歌やリズムに親しむための活動
Music : using tunes and rhythms
- 5-6 造形活動の指導：創造性を育てるための活動
Art : encouraging creativity
- 5-7 環境教育の指導：自然との共生を学ぶための活動
Environment : learning to coexist with nature
- 5-8 子ども同士の活動の指導：人とかかわる力を育てるための活動
Peer relationships : developing positive interaction between children
- 6 園の環境の構成
Creation of an appropriate environment at kindergarten
- 6-1 園舎内の構成の仕方

1 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター研究協力員

2 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター

- Creating the kindergarten environment
- 6-2 園庭の構成の仕方
 - How to create a play ground
- 6-3 園外の環境の活用
 - Experiencing the outside world
- 7 教材づくり
 - Materials for teaching
- 8 保護者との連携 — 幼児教育の理解と協力に向けて —
 - Cooperation with parents : understanding of early childhood education
- 9 教師自らによる保育の改善の方法
 - Methods for improving education : teacher's self-reflection and development

第3部 途上国で幼児教育支援を行うために

PartIII Supporting Early Childhood Education in Developing Countries

第1部は、日本の幼児教育について、その理論的な枠組みと、子どもの発達という視点から構成した。まず、日本の幼児教育の基本的な考え方、特色、制度を整理した上で、実際の子どもの生活や保育場面と照らし合わせながら、子どもの発達を促すための環境構成や教師の援助の仕方などを具体的に述べた。さらに、0歳児～6歳児（就学前）の子どもの発達の概要を『保育所保育指針』を基にまとめた。

第2部は、第1部で述べた理論的枠組みを基盤にして、“子ども中心の保育の原理”と“実践”がどのように結びつき、日本の幼稚園において実際に、どのような幼児教育が実践されているのかについて、写真と文章とで構成した。幼児教育を進めていくために必要なカリキュラムや指導計画、園環境の構成の仕方、教材づくり、保護者との連携、保育の改善の方法、そして、幼稚園生活1日の流れについて、様々な実例を盛り込みながらひとつの理念系として具体的に提示した。「5保育内容」では、日本の幼稚園において取り組まれることの多い活動について個別に、その「概要」「教育的意義」「実際の活動場面の様子」「留意点」「活動の応用またはヒント」について詳細に述べている。そのことにより、単に、日本の幼稚園で展開される活動の種類と様子を知るだけでなく、それぞれの活動のもつ意味を理解しつつ、それを一種の例として、各々の国や地域の文化や社会事情にあった形で応用し、発展させていくことを可能にした。このことは、ハンドブック

全体を通して貫いた姿勢である。日本の幼児教育のやり方を提示し、それがそのまま利用されることを期待するのではなく、あくまでもそれをヒントとして、それぞれの場の実情にあったやり方で応用できることを目的としている。

第3部では、日本の支援団体によってこれまで蓄積されてきた経験をもとに、途上国で実際に幼児教育支援を行うための留意点や、活動実践例を紹介した。途上国における幼児教育普及に対して、日本が重要な役割を担うことへの期待が高まっている。これまでに様々な団体や個人によって行われてきた支援の過程と成果を共有し、途上国の現状とニーズを適切に把握した上で、実際の支援活動に生かしていくことが今後ますます望まれるだろう。本ハンドブックがそのための足がかりのひとつとなることを願っている。

このハンドブック作成にあたり、多くの方々のご協力を賜ったことに深く感謝申し上げたい。そして、今回を初版として、今後多くの方々からのご指導、ご助言を頂戴して改訂を重ね、より充実した内容と、途上国の幼児教育推進と発展への貢献を目指していく。